

平成28年度第2回 府中町総合教育会議 議事録（要旨）

日 時：平成28年11月7日（月）17時30分～18時25分

場 所：くすのきプラザ2階 研修室

出席者：町長 佐藤 信治 教育長 高杉 良知 教育委員 坂田 眞澄
教育委員 小濱 樹子 教育委員 田村 雅恵 教育委員 上之園 公子

○開会

○協議事項

- 1 府中町学校運営等についての調査検討委員会(第三者委員会)の答申について
- 2 府中町教育委員会及び府中緑ヶ丘中学校の取組みについて

○議事内容

- 1 第三者委員会の答申について

(1)教育長による説明

11月3日に、第三者委員会から答申書を受領し、聴き取り調査やアンケート等による自死にいたる背景の調査、その結果を受けての学校の対応、あるいは教育委員会の問題点に対する明確な指摘、またそれを踏まえた再発防止に対する提言をいただいた。

提言を元に、改善策の案を取りまとめ、この件について、町長と協議をすべく、総合教育会議の開催を依頼。答申内容については、11月4日に町長に報告している。

(2)町長意見

11月4日に答申内容について説明を受けている。

①自死に至った経緯。委員会調査と「中学校報告書」記載内容に概ね齟齬はなかったが、中学校報告書は学校内の調査にとどまっていたこともあって、委員会答申は、少年法の規定など背景・要因を深く分析がなされていた。

②学校の問題点。組織運営として、ミスそのものも問題であるが、ミスが放置されたことの方が深い要因があること。教育の目標の部分が機械的・形式的に運用がなされ、校長もそれを追認していた。教師としてのあり様、最も基盤となるところが揺らいでいたこと。

③個々のパーソナリティに応じた指導の重要性。

④教職員1人1人が自分の課題として受け止め、答申書の内容を共有する。

説明を受け、再発防止策を取りまとめ、早急に取り組める事項、中長期的に取り組める事項の整理が必要であることを教育長へ伝えた。

- 2 府中町教育委員会及び府中緑ヶ丘中学校の取組みについて

(1)教育長による説明

答申書の「再発防止の提言」の中で、学校についての10項目、教育委員会について3

項目の提言をいただき、改善策の柱として次の３つを考えている。

① 教職員の意識改革、資質・能力の向上を図る研修の充実

今回の問題点として、子供たちを守り育てる教師の基本である「教育的姿勢の欠如」が指摘された。府中町の教職員として本件についての当事者意識を持つために、答申書を全教職員が熟読、それについての自分なりの改善策等を考えてもらおうと思っている。その後、今年中には、全教職員を対象とした研修会を実施する。教職員の視点で出された改善策については町教委としても支援していく。

② 外部からの指導・支援、援助及び点検・評価するしくみ作り

学校・家庭・地域が協働して教育をするコミュニティ・スクールを進めること、またチーム学校として、教諭以外の多様な職員がそれぞれの専門性を発揮して子供たちを指導、支援していくことが必要。

改善策を点検し評価するためにも外部の目は必要であるとする。自己評価と合わせて点検・評価の仕組みを再検討していく。

再発防止策として、教諭とは違う心の専門家が身近にいて生徒が日常的に相談できる体制を整えるため、スクールカウンセラーの配置数を増やし、現在の週１回から、週３回以上にすることが必要である。

③ 教育委員会内の組織体制作り

学校と連携・協力・情報共有を緊密に行う体制として、学校教育課に学校経営を支援することを主に行う、仮称ですが、「学校支援室」のようなものの設置を考えている。学校へ出向き、学校長から話を聞く、授業を観る、会議に出席する等により、日常的な学校の姿から必要な指導・支援・援助を行っていくための体制を整えていく。

具体的な人員として、現在、主任管理主事兼務も含め指導主事は３名体制だが、緑中改善のための主担当者として期間を限定し増員する必要がある。年度途中の増員は難しいため、今年度はまず、大学関係者等を改善のための支援アドバイザーとして月２回程度招聘し、抜本的な学校改善についての具体的な計画をつくり、それをもとに次年度から担当者が直接学校で支援に当たるとともに、その状況を教委へ持ち帰り、町内すべての学校改善につなげてく。

(2) 教育委員意見

① 教職員の研修について

今回の答申では、学校の問題点が明確にされている。府中町の全教職員一人一人が、自分の問題と考えて、熟読し、問題点と向き合った感想や、提言を受けての対策を考えなければならないと思う。

その中で、自分が教育に携わってきた人生を振り返り、この答申を読む、ということをしていただきたい。

これを踏まえての全体研修を行う中で、府中町の教職員として認識を共有していくこと、校務等で来られなければ、補講を行うなど、必ず全員が受講できる体制で実施する必要がある。

あると思う。来年度以降も、府中町に來た教員は全員この答申書を熟読し、研修をする、ということをしていくべきである。

今回のこの答申書を受け止めるにあたって教員へのメンタル面でのケアあるいは特別な支援なども含め、フォローも必要になると思う。

また、答申の精神を共有化した上で、進路指導、生徒指導等についても「児童生徒理解に基づく指導」を根本に据えた研修を、充実させていくことが必要。

教員は自分の姿を見直し、緊張感を持って指導にあたって欲しい。全ての時間に発することば、一語一語に気を使う必要がある。生徒一人一人がどんな思いを抱き、どんな状態にあるか、その変化に気付く教員であってほしいと思う。

教員が一番長く子どもに接するのは、授業の場であり、教育の信頼回復は授業力の向上なくして、あり得ない。授業力の向上は、生徒指導力の向上につながっていると思う。教員の能力向上については、ぜひ授業力の向上にも力を入れてほしい。

② 外部からの視点の導入について

学校には「外からの目」が本当に必要だと思う。去年までの緑ヶ丘中学校は、閉じているような印象があったが、今年度に入ってから変わってきていると思うし、地域の方からもそういう声をいただいている。

地域や保護者が学校に入ることにより、学校の意識も変わるが、地域や保護者の意識も変わってくると思う。地域も含め、いろいろな立場の人が一緒に子どもを育てていく、という意識を共有していきたいと思う。府中南小学校という先進事例があるので、ノウハウを共有しながらぜひ進めていくべきだと思う。

③ スクールカウンセラーについて

チーム学校として教員以外の職種も子どもを見守り育てるということだが、緑ヶ丘中学校については、スクールカウンセラーの増員が必要だと思う。多感な時期の子どもは、周りの目が気になる子もいるので、「友達同士で相談に行ってもいいんだよ。」というような気軽に相談に行ける体制作りをお願いしたい。今回の事例に限らず、学校の中に先生以外に相談ができる大人がいる、というのが大事だと思う。先生とも親とも違う、斜めの関係の人が身近にいるということで、助けになるのではないかなと思う。例えば、「地域の部屋」を作るのもいいのではないかな。その部屋に地域の方々や保護者が集うことで、地域との交流も持てるし、生徒の様子や先生の授業を見てもらい、感じた事を学校へフィードバックできるのではないかな。

「チーム学校」とは、大人だけでなく、学校は子ども達が主役なので、子ども達をしっかり活躍させる体制をとることが大事である。子ども達が「僕たち・私たちの学校」として自分達の学校をどのようにしたいか、意見や考えをしっかりと聴く必要がある。

私たち教育委員も、これまで以上に学校に足を運び色々な気づきをアドバイスしていきたい。

④ 学校と教育委員会との情報の共有化について

教育委員会と学校の情報共有化や支援・指導の充実のためには、指導主事の増員が必要

だが、県教委の人事も絡み、今すぐは難しい。

今から年度末までの期間、大学の先生を講師として呼び出して、専門家の視点から、学校の指導状況を点検してもらう、そこで足りない部分、できていない部分を洗い出して、翌年度からの指導主事の指導・助言に生かしていくなど、今年度から取り掛かっていく必要があると思う。

また指導主事が配置されるまでの間、学校との情報の共有化のためにも、教育委員が一人一人の先生の授業等を見て、アドバイスをしていく、といったことも考えている。今までも行事や研究授業等には可能な限り学校に足を運び、また教育委員会の学校訪問という形で、授業の様子を観るなどはしていたが、もっと掃除時間や休憩時間等を含め日常的に学校の様子を見ていきたい。

(3)町長意見

①教職員の自己改革する研修にしてほしい。指導者の本気度が問われている。日常的・継続的に取り組んでいただきたい。

②外部からの目。教育関係者を越えた、弁護士、行政に携わっていない民間企業の方などの多様な人材の活用を検討するようお願いしたい。また、生徒、保護者からの相談体制の充実についても、外部人材活用を含めた検討が必要ではないか。

③目的、成果目標を明確にし、期限内でしっかりと成果を出す。また、それが分かるような取り組みにしてほしい。

今回の件は、公務員であったり、学校といった組織、体質の中で生まれたこともきちんと考えなければならない。抜本的に変えていくということが大事なのではないか。

3府中緑ヶ丘中学校の取り組みについて

(1)教育長より説明

①答申書の精読

緑中の教員にとって非常に重いことではあるが、我が事として自分自身の指導と照らしながら、正面から向き合ってほしいと思う。

②進路指導について

年度当初より基本的な考え方を見直し、生徒や保護者の思いや願いに寄り添い、将来への展望を持って努力できるように指導・援助する（注：府中町進路指導に係る基本方針）となっているが、本当にできているか、一人一人にきちんと寄り添った指導・援助ができているのか、今一度点検をする。

③その他

上記以外の部分については、教育委員会の改善策を学校に示すとともに、学校なりの改善策を出させてそのすり合わせを行い、11月11日実施予定の保護者会で、保護者の方々に説明する。

私立高校の入試の専願制度の提言については、広島県教育委員会に検討をお願いする。

(2)町長意見

教育委員会においては、まとめられた改善策に基づき、学校改善について取り組んでいただきたい。

改善策において、教育委員会のみでは対応できない体制整備のことや、教員を含めた教育行政に関する相談体制の確立など、列挙された内容について、連携を密にし、町教育行政の信頼回復に具体的に取り組んでいきたいと考えている。

予算措置等必要なものについては、12月の補正予算あるいは来年度以降の当初予算に遺漏なく予算要求するようにお願いをする。

○閉会